

## PET/CT 検査予約時における注意事項（病院・医院用）

### 【保険適用について】

現在、保険適用になる疾患は、Ⅰ. てんかん、Ⅱ. 心疾患（虚血性心疾患および心サルコイドーシス）、Ⅲ. 悪性腫瘍（早期胃癌を除く）、Ⅳ. 血管炎です。必要条件は以下の通りです。

#### Ⅰ. てんかん

手術が必要な症例であること。

#### Ⅱ. 心疾患

虚血性心疾患で、心筋シンチで心筋組織バイアビリティ診断ができない症例であること。

心サルコイドーシスにおける炎症部位の診断が必要とされる症例であること。

#### Ⅲ. 悪性腫瘍（早期胃癌を除く）

悪性腫瘍の診断が確定していること。（疑いで検査は保険適用外です。）

病期診断、転移・再発の診断が確定できない症例であること。

注）但し、生検リスクが高いなどによって病理診断困難な場合には、臨床上の高い確実性を持って悪性腫瘍と診断されれば保険適用となります。また、膵癌と腫瘤形成性膵炎との鑑別診断は、前述の通り保険適用になります。（厚生労働省の疑義解釈資料より）

治療効果判定や経過観察の目的は保険適用外です。

注）但し、悪性リンパ腫についてのみ、治療効果判定のためであっても、転移・再発の診断の目的に該当するとして認められます。（厚生労働省の疑義解釈資料より）

#### Ⅳ. 血管炎

診断が確定している高安動脈炎等の大型血管炎において、他の検査で局在または活動性の判断がつかない受診者であること。

### 【絶食・血糖値について】

検査開始 6 時間以上前からの絶食をお願いいたします。検査時の血糖値が 150mg/dl を超える場合には、集積が弱まり偽陰性になる場合があります。

心サルコイドーシスについては厳密な食事制限（18 時間以上の絶食）が必要となります。

### 【付き添いについて】

被ばく防止の観点からスタッフによる介助は行えません。受診者様おひとりでの移動や寝台への昇降が困難な場合は、検査することはできません。介助を行うご家族の付き添いが必要です。必ず同行してください。また、被ばくの観点から乳幼児や小さなお子様を連れての検査はできません。

### 【糖尿病について】

インスリン等で 1 週間以上のコントロールをお願いいたします。なお、コントロール時に高血糖の場合には前記の通りに偽陽性になる場合がありますので以下の注意事項を厳守してください。

① 予約時間の如何にかかわらず、前日の 21 時以降糖分を含む飲食物を控えさせてください。

② 同時にインスリンや経口糖尿病薬の投与は検査終了まで行わないでください。

### 【CT 検査およびガリウム (<sup>67</sup>Ga) シンチについて】

同月内に CT 検査が行われていると PET/CT 検査の CT 検査部分の保険請求が行えませんが、翌月以降にご依頼ください。

同月内にガリウム (<sup>67</sup>Ga) シンチと PET/CT 検査の同時保険請求はできませんので、ガリウム (<sup>67</sup>Ga) シンチを行わないようお願いいたします。

## PET/CT 検査予約時における注意事項の補足（病院・医院用）

### 1. 保険適用について

貴院においても、確定病名で保険請求されている必要があります。

#### I. てんかん

手術が必要な症例が対象です。

#### II. 心疾患

虚血性心疾患で心筋シンチによるバイアビリティの評価ができない場合のみ適用可能です。

サルコイドーシスは心サルコイドーシスのみ適用可能です。

#### III. 悪性腫瘍（早期胃癌を除く）

①悪性腫瘍か良性腫瘍の鑑別は保険適用外です。

②不明熱の鑑別や疑い病名はすべて保険適用外です。悪性腫瘍の確定診断が必要です。

③病理診断による確定診断が得られなかった場合でも臨床上高い蓋然性を持って悪性腫瘍と診断されている場合について、病期診断が適用されます。

④困難やリスクが高いなどの理由で病理診断を実施していない場合については、その詳細について記述してください。

⑤画像診断に加えて他の検査による精査がなされていることが必要です。

⑥悪性リンパ腫の治療効果判定は保険適用となります。

⑦悪性リンパ腫を除く悪性腫瘍において、化学療法や放射線治療の効果判定や定期的な経過観察目的は保険適用になりません。治療後で画像による検査などの異常確認や腫瘍マーカーの上昇など明確に“転移・再発を強く疑う”場合に限り保険適用となります。

⑧同月内にガリウム（<sup>67</sup>Ga）シンチが実施されている場合は保険適用になりません。

⑨6 か月内に同じ病名による PET/CT 検査は査定対象になる可能性があります。（但し、悪性リンパ腫の治療効果判定を除く。）

#### IV. 血管炎

すでに大型血管炎と診断がついている方で、他の検査で病変の局在または活動性の判別のつかない場合に保険適用となります。

### 2. 入院患者様への PET/CT 検査について

入院患者様への PET/CT 検査は行えません。

### 3. 血糖値について

血糖値が 150mg/dl 以上の場合は画質が悪くなります。血糖値が 200mg/dl を超えている方は診断が難しいとされています。インスリン等で 1 週間以上のコントロールをお願いします。検査前日の 21 時以降はインスリンや経口糖尿病薬の投与は検査終了まで行わないでください。

使用する検査薬は、半減期（約 110 分）が短く返品が不可能なものです。

検査当日の血糖値が高い場合でも、それを考慮された上で検査依頼されたものと理解し検査を行います。血糖値を十分に考慮した上での、検査依頼をよろしくお願いします。

### 4. 絶食について

検査前日の 21 時以降、糖分を含む飲食物を控えさせてください。

水や緑茶は飲んでも構いません。カロリーオフ飲料・シュガーレス飲料・果物風味の水やスポーツドリンクは絶対に飲まないようにしてください。カロリーオフやシュガーレスなどのあめやガムも絶対に食べないでください。※注意：検査直前の血糖値上昇は、画質悪化の大きな要因になります。

## 5. 低血糖について

検査前 6 時間（心サルコイドーシスの場合 18 時間）以上前からの絶食になります。糖尿病の方や血糖値をコントロールして検査を受けられる方は、事前に絶食を行うことが可能なのか十分に確認してください。低血糖発作が発生した場合は、即時検査を中止いたします。

## 6. ご自身で移動（検査室間の移動や検査台への移動）が行える方が対象です。

過度の被曝を防止するため、放射線技師や看護師による介助は行えません。

介助が必要な方は、介助が行えるご家族が付き添うようにお願いします。

介護施設等のスタッフによる介助は、職業被曝の範疇を超えるため行わないでください。

ストレッチャーでは検査が行えません。（検査薬の投与が行えません。）

## 7. 検査前の過ごし方について

通常の日常生活に制限はありませんが、散歩・体操・水泳や激しい肉体労働などは避けてください。カラオケやマッサージなども行わないでください。

検査薬剤投与後の読書や携帯電話の操作は行わないでください。できるだけ安静に過ごしていただきます。

## 8. 閉所恐怖症や体動のある方について

PET/CT 検査は、MRI 装置のようなドーム内に入って約 30 分間撮影を行います。そのため閉所恐怖症の方や静止状態が維持できない方の検査は行えません。（目安として、MRI の撮影が不可能な方）

## 9. 検査前日午後（土日祝祭日を除く）、検査予定者へ確認の電話を行います。

検査前日の電話連絡のために、必ず連絡の取れる電話番号の記載をお願いします。

ご家族や付き添いの方への連絡でもかまいません。

## 10. 検査がキャンセルになる場合は、速やかに地域医療連携室へ電話連絡をお願いします。

検査前日（土日祝祭日を除く）の午前中までをお願いします。

キャンセル料を徴収することを含めた検査同意書になっています。ご注意ください。

## 11. キャンセル時の自己負担について

PET/CT 検査で使用する薬剤は使用期間が非常に短いため、受診者様だけのために準備いたします。そのため検査当日のキャンセルや時間の変更はできません。検査時間に遅れた場合には検査できません。やむを得ず検査の延期やキャンセルが必要な場合は、各外来診療科へ検査前日（土日祝祭日を除く）の午前中までにご連絡ください。当日または連絡のないキャンセルにつきましては、薬剤の実費（約 50,000 円）を負担していただきます。

## 12. 機器の故障や薬剤輸送中の事故について

検査機器の保守点検及び薬剤の輸送体制には万全を期していますが、機器の故障や薬剤輸送中の事故などの際に検査できなくなることがあります。その場合、時間の変更もしくは日を改めて検査させていただきますのでご了承ください。